

アジア情報室通報

Bulletin of Asian Resources Room

第7巻第3号(2009年9月)

目次

時代を率いた館長一任継愈館長と中国国家図書館 岡村志嘉子(国立国会図書館アジア情報課)	2
アラビア文字活字印刷の普及とムハンマド・アリー時代のブーラク印刷所 林瞬介(国立国会図書館アジア情報課)	6
新着参考図書目録(2009.4~2009.6)	12
レファレンスツール紹介⑩ 中国の映画について調べる	18
お知らせ 平成21年度アジア情報研修「現代インド情報の調べ方」の開催 アジア言語 OPAC へのタイ語図書書誌データの追加 中国学術雑誌全文データベース(CAJ)バックナンバーアーカイブの追加	20

時代を率いた館長—任継愈館長と中国国家図書館

岡村志嘉子（国立国会図書館アジア情報課）

2009年9月9日、中国国家図書館は創立100周年を祝った。その約2か月前のこと、2009年7月11日、中国国家図書館の歴史に大きな足跡を残した人物がこの世を去った。

任継愈、享年93歳。1987年から2005年まで18年間、中国国家図書館の館長を務め、退任後も名誉館長として、亡くなるまで中国国家図書館を代表する存在だった。名誉館長の時期まで含め22年に及ぶ在任期間は、中国国家図書館の歴史全体の5分の1を超え、歴代館長の中でも突出した長さである。

任館長の在任中、中国国家図書館は飛躍的な発展を遂げた。改革開放政策の下、国の政策に従い、社会環境の変化に対応しながら、試行錯誤を繰り返し今日の中国国家図書館が築き上げられてきた。職員も相当大きな意識変革を求められる中で、高名な学者でもある任館長は職員の精神的支柱であり続けた。

私は20年以上にわたり、中国国家図書館のさまざまな人々と接触してきた。彼らは誰もが任館長を敬愛し、任継愈という傑出した人物を館長に戴いていることに誇りを持っていた。任館長について語るときに彼らは、常に敬慕の念と穏やかな安心感に満ち溢れていた。そして私自身も、彼らと話しながら、彼らと同じ感情を共有できる幸せを感じないときはなかった。

任館長の在任期間は、国立国会図書館（以下、「当館」という。）と中国国家図書館との交流の進展した時期でもあった。当館と中国国家図書館は1981年から毎年、代表団の相互訪問という形で業務交流を実施している¹。中国国家図書館の訪日代表団には、任館長も団長として2回参加している。私は中国語通訳として両館の業務交流などに関わる中で、任館長と接する機会を何度か持った。任館長は私だけでなく、当館側の多くの関係者にも鮮烈な印象を残していたのを記憶している。

「任継愈逝去」の報は、中国のマスメディアで極めて大きく取り上げられた。胡錦濤国家主席、温家宝首相以下、国民全体がその死を悼み、中国国家図書館のホームページも、トップページから全面的に「任継愈名誉館長追悼」の特別画面に切り替えられた。私が直接知る中国国家図書館は任館長時代とほぼ重なる。追悼記事に目を通しながら、この二十数年間の中国国家図書館の変化を振り返り、私は任館長がいかに大きな存在であったかということを思わずにはいられなかった。それは中国国家図書館にとっての意味の大きさに止まらない。中国で国立図書館の長を任継愈という人物が務めてきたことの意味の大きさである。中国の図書館事業の発展を牽引する中国国家図書館、その中心

にあつて任館長の果たしてきた有形無形の役割を今改めて思うのである。

中国国家図書館の沿革と歴代館長

中国国家図書館の前身は、清朝末期に創設が決まった京師図書館である。1909年（宣統元年）9月9日、宣統帝によって京師図書館設立の裁可が下された。翌1910年（宣統二年）には、中国で初めての図書館法規となる「京師及各省図書館通行章程」も制定された。京師図書館は広化寺を館舎と定め開館準備を進めたが、完成を見ぬうちに清朝は滅亡する。正式に開館するのは、辛亥革命を経て中華民国に移管された後、1912年8月27日のことであつた。1916年には正式に国内出版物の納本を受け入れるようになり、国立図書館としての機能を拡充していく。1928年には館名が国立北平図書館と変更された。所在地も幾度か変遷した。1931年になって文津街館舎が完成し、当時の中国国内で最大規模の、最も先進的な図書館となった。

中華人民共和国成立後、1950年3月6日、国立北平図書館は国立北京図書館と名を改め、1951年6月12日には北京図書館と改称された。文津街の館舎は増築を重ねたが、蔵書の増加と業務の拡大に伴い手狭となり、周恩来首相の指示の下、1975年3月、北京図書館新館の建設が決まった。新館が落成したのは1987年、所在地は北京市西部の白石橋である。1998年12月12日、北京図書館は国家図書館と改称され、対外的には中国国家図書館と称されることになった。2004年12月からは、国家図書館第2期プロジェクトとして国家デジタル図書館の建設が進められた。国家デジタル図書館は2008年9月9日に開館し、中国国家図書館はまた新たな段階に入った²。

館名については、上述のように幾度か変更があつたが、本稿では以下すべて、中国国家図書館と表記する。また、任継愈氏についてもすべて任館長と記すことにする。

中国国家図書館の館長は、初代から現在まで合わせて25代を数える。そのうち第20代までが中華人民共和国成立以前、第21代以降の5代が中華人民共和国成立後である。初代館長は翰林院編修の地位にあつた繆荃孫。初期の館長はわずか1年足らずで交代することが多かったが、夏曾佑、馬叙倫、梁啓超など中国近代史上の著名な学者が名を連ねている。1929年から1940年までは蔡元培が館長の任にあつた。

中華人民共和国成立直後しばらく、館長は空席だった。1953年から1981年まで3代、著名な学者などが館長を務めたが、その後再び空席となっていた。中国

国家図書館新館の開館を間近に控えた1987年5月、第24代館長として任館長が就任した。そのとき任館長は71歳だった³。

任館長とはどのような人物か。中国国家図書館ホームページで紹介されているその経歴は以下のとおりである（一部省略）。

任継愈（1916.4.15－2009.7.11） 山東省平原県生まれ。著名な哲学者、宗教学者、歴史学者、中国国家図書館名誉館長。

1934年、北京大学哲学系入学、1938年卒業。1939年西南連合大学北京大学文科研究所大学院入学、中国哲学史と仏教史を湯用彤、賀麟両教授に学ぶ。1941年修士学位を取得。1942-1964年、北京大学哲学系の講師、副教授、教授を歴任。その間北京大学で中国哲学史、宋明理学、中国哲学問題、朱子哲学、華嚴宗研究、仏教著作講読、隋唐仏教、論理学を、北京師範大学で中国哲学史を講義。1955-1966年、『北京大学学報（人文科学版）』編集者。1956年より中国科学院哲学研究所研究員を兼務。1964年、中国科学院世界宗教研究所（筆者注：後に中国社会科学院所属となる）を設立し、所長に就任。宗教学専攻の大学院生、学部学生の指導に従事。1999年、国際欧亜科学院会員に選出。1987-2005年、中国国家図書館館長。2009年1月15日、國務院により中央文史研究館館員に任命。

1978年以降、中国社会科学院大学院教授・博士課程指導教官、國務院学位委員会学科評議員・哲学部会長、国家典籍出版計画検討班員、中国宗教学会会長、中国無神論学会理事長、中国チベット仏教研究会会長、中国哲学史学会会長、社会科学基金宗教部会長、中国社会科学院世界宗教研究所名誉所長などを歴任。学術界の代表として、全国人民代表大会の第4-8期代表に選出⁴。

任館長が中国国家図書館の館長に任命された理由は詳らかではない。社会的影響力の大きい学者が務めることの多かったその地位に、新館開館という節目の時期に就任する人物として、任館長ほどの適任者はいないと考えられたのは確かだろう。実際、任館長はまさしく適任者であった。長期にわたる在任期間はその証明に他ならない。

日中業務交流と任館長

1987年10月、当館の業務交流代表団の一員として訪中したとき、私は初めて任館長に会った。

なんと頭の良い人だろうーそれが、高名な学者だと事前に教えられ、緊張しながら館長表敬の通訳に臨んだ私の第一印象だった。通訳で咄嗟に意を尽くせなかった部分、訳し足りなかった部分があっても、その言

わんとするところを完璧に汲み取って話の流れを理想的な方向に導いてくれる。通訳の場で、私は任館長に何度助けられたかわからない。任館長の発する言葉は極めて論理的で一切無駄がない。が、決して冷たさではなく、むしろ暖かく含蓄に富んでいた。その格調高い中国語は、それ以来私の究極の手本となった。

私が任館長に最後に会ったのは、やはり業務交流代表団の一員として訪中した2001年9月のことだった。当時、他の仕事も多く中国国家図書館には週1～2回しか出勤しない任館長だったが、当館の業務交流代表団が訪問すると必ず表敬のための時間を作ってくれた。このとき任館長は85歳。いつものステッキも持たず、ますます矍鑠とした様子だった。

「職員同士の交流はとても大切で、今後もっと拡大していくとよいと思う」

今後の両館の職員交流に話が及んだとき、任館長はこう言いながら私を振り返った。

「・・・この人もね、中国語がうまくなったし」

任館長に会うのは7回目になるが、そんなことを直接言われるとは思ってもみなかったのも、私は一瞬言葉に詰まった。通訳した後で、思わず問い返していた。

「本当ですか・・・最初の頃を覚えていらっしゃるのですか・・・あの頃は全然できなかった」

任館長はそれには答えず、にっこりとしてこう言ったのだった。

「実践が大事。やればやるほど上達する」

背筋をピンと伸ばした品のよい物腰は、超然としていながら全く威圧感はなく、どこか飄飄として周囲を魅了する。常に人を暖かく包み込んでくれる優しさと同時に、怠惰なるもの、安易なるものを決して許さない厳しさがある。何よりも、深い学識に裏付けられた極めて合理的で柔軟な考え方の持ち主。それが、私の直接知る任館長であった。

任館長が中国国家図書館業務交流代表団の団長として当館を訪問したのは、1988年5月と1994年10月の2回である。図書館の実務に携わっているわけではないので、会議で自ら報告を担当することはなかったが、実務レベルの意見交換の場にも必ず出席し、会議冒頭の挨拶、締め括りの発言は常に簡にして要を得た見事なものだった。宴席は好まない人だったが、団長としての責務をないがしろにすることはなかった。

1994年の日中業務交流では、私は来日した中国国家図書館代表団の全日程に通訳として同行した。任館長と行動を共にし、通訳という立場を離れて任館長と話ができる機会も少なくなかった。代表団の団員も皆、任館長と話すのが楽しくてならない様子で、代わる代わるいろいろなことを質問していた。質問攻めに近いようなこともあった。任館長はどんな質問にも一つ一つ丁寧に答える。質問に的確に答えてくれるだけでなく、その受け答えにどこかユーモアが感じられ、座は

いつも和やかになった。団員は中国国家図書館の部・課長級の人達だが、任館長と長時間行動を共にできる機会は、彼らにとっても貴重なものだったに違いない。

任館長は毎朝4時に起床、直ちに研究や原稿執筆に取りかかるのが日課だった。この日課は旅行中でも守られていた。決められた日程を完璧にこなしながら、少しでも自由時間ができるとホテルの自室に戻り、机に向かった。1950年代、毛沢東に招かれ宗教について進講したとき、毛沢東が賞賛を惜しまなかったという逸話の持ち主は、飽くなき学究の徒であった。

この頃、当館では日中業務交流のあり方を見直すべきではないかという声が強まりつつあった。定例の日中業務交流は、1994年に第14回を迎えていた。長く継続しているにも関わらず、その成果がはっきりとした形で現れてこないことが、一部で批判的に受け止められていたようである。「より実務的な協力を」「次のステップへ見直しを」などという意見が業務交流の席上でも表明された。ただ、より実務的にとは言うものの、この時点で具体的なテーマが当館側から示されることはなかった。中国側からは、それに対して明確な反応はなかった。

東京での業務交流の日程を終えた後、代表団は関西、九州などの図書館・関係機関を視察して帰国した。帰国前の任館長に私は、「業務交流の見直し」について意見を聞こうとした。見直し論の背景には、当館側がこの機会を十分活用できていない状況がある、と私は考えていた。今後のために中国側の本音が聞きたかった。

「現在の業務交流のあり方をどう思うか」

「当館側の受け入れ態勢に問題はないか」

「今後どういう形の交流が望ましいか」

「何か気が付いたことがあれば指摘してほしい」

結果はというと、完全に無視されてしまった。全く聞かえなかったふりである。後から思えば、任館長が私などを相手にこのような議論をするはずはなかったのだが、一切この話題に取り合おうとしなかった任館長の態度は強く印象に残った。

中国国家図書館が「業務交流の見直し」に無関心であったわけでは決していない。実際、後日私は、中国国家図書館で日本語通訳に携わる人から、日本側は業務交流を縮小したいと考えているのか、その理由は何か、と単刀直入に尋ねられた。

これまでの経緯を振り返ってみると、当館よりも中国国家図書館の方が、業務交流を自館の業務の発展にうまく役立ててきたように思われる。例えば、中国国家図書館で1998年から本格実施された立法・政策決定部門に対するサービス、1999年から始まった中央省庁への分館設置は、当館の国会サービスや支部図書館制度が参考にされている。思い起こせば、いずれも業務交流の場で中国側が大きな関心を示していたもの

であった。

初期は日中間の経済格差も大きく、図書館サービスの水準にも隔たりがあった。しかし今日、国家デジタル図書館をはじめ、中国国家図書館の図書館サービスの進展ぶりは著しい。各国の国立図書館との相互協力も、当館以上に積極的に推進している。「聞かえなかったふり」で性急な評価を戒めた任館長には、今日の状況が見えていたのかもしれない。

任館長と大規模古典籍編纂事業

「この20年の中国国家図書館の発展をとっても喜ばしく思っています。特に、以前は資料の保存や整理に重点が置かれ、利用はあまり考えられていませんでした。稀少な資料であればあるほど、広く公開しなければならぬのです。今では、保存偏重・利用軽視の傾向は改められました。蔵書利用のため最大限のサービスを行うことが、我々の業務の出発点となっています⁵⁾」

任館長はインタビューで、この20年間の中国国家図書館の変化をどう評価するかという問いに、このように答えている。同じインタビューで、「蔵書と職員の状況を完全に把握することが館長の責務です⁶⁾」と述べた任館長は、職員の資質向上や利用者サービスの拡大を重視し、その実現に向けて指導力を発揮した。一方で、電気料金やバス停新設をめぐる問題が起これば、北京市長と交渉して有利に解決し⁷⁾、歩道橋の新設などにも大きな役割を果たした⁸⁾。このようにさまざまな館内事務に携わりながら、任館長が一貫して取り組んでいたもう一つの大きな事業がある。

任館長は1980年代以降、古典籍の整理と公開という事業に大きな力を注いでいた。これは、蔵書の公開と利用の促進という中国国家図書館の重点目標とも一致するものだが、任館長の視野にあるのは中国国家図書館の蔵書のみではなかった。国内の古典籍全体を包含する大規模な整理編纂事業を任館長は構想し、それらは国家事業として推進されていく。任館長はいくつもの編集責任者を兼務し、使命感を持って事業全体を統括した。どれ一つとして、名目だけの責任者だったものはない。『国家図書館藏敦煌遺書』『文津閣四庫全書』など中国国家図書館の蔵書を対象としたものから、『中華大藏経』『中華大典』などの全国的な巨大プロジェクトまで、任館長は事業の指揮を執りつつ自ら作業を分担した。膨大な量の文献が整理、校勘を経て続々と複製・刊行されていった。

『中華大藏経』は中国国家図書館所蔵の『趙城金藏』を底本とし、他の8種類の代表的な經典を参照して編纂される經典の集大成である。16年の歳月をかけて107冊、1億余字に及ぶ「漢語の部・正編」が完成し、引き続き、「漢語の部・続編」の編纂が始まった。2億6000万字に上る「続編」の編纂は多大な経費を要するため難航した。そこで、任館長は2007年、

温家宝首相に援助を求める手紙を出した。それを読んだ温首相はすぐに財政当局に予算措置を指示した。

「これほど早く首相の指示が出るとは思わなかった」と任館長はとても喜んだという。必要な予算措置のおかげで、「続編」は予定通り5年以内に完成する見込みである⁹。

1989年から始まった『中華大典』編纂事業は規模がさらに大きい。中国歴代の漢語による古典籍を現代の学術分野別に24に分類し、さらに小分類して2万点以上の文献を抄録する。7億字を超える総字数は、『永楽大典』の2倍、『古今圖書集成』の4倍に相当する¹⁰。この事業も、今世紀に入って資金不足に陥った。2004年3月、任館長以下数名の学者が連名で温家宝首相に宛て、『中華大典』編纂の意義と苦境の実態を訴える手紙を出した。このときも温首相は直ちに対応し、編纂作業は再開されたという¹¹。

小学生のとき『四書』を読み終え、中国の伝統的知識人としての完璧な教養を身に付けていた任館長は、戦乱の中に青年期を過ごした。任館長の在学中、北京大学は日本の占領地域を脱して湖南省の長沙へ、さらに雲南省の昆明へと移転した。任館長もそれに従った。長沙から昆明へは1300キロメートル余りを2か月かけて徒歩で移動した。その際、農村の疲弊と農民の貧困を目の当たりにした任館長は、学問研究は決して中国の現実から切り離されたものであってはならないと確信した¹²。長い歴史の蓄積の上に中国の現実があり、学問研究はその蓄積を知ることから始まる。任館長が強い使命感を持って大規模な古典籍編纂事業に取り組んだのは、文化的蓄積として古典籍が将来にわたって果たし続けるであろう役割を、誰よりも重視していたからではないだろうか。

中国国家図書館は現在、国家デジタル図書館に代表されるように、最先端の技術を駆使した新しい図書館サービスを積極的に推進している。その一方で、古典籍の価値をこれまで以上に重視し、その価値を広く伝えることによって自館の価値をさらに高めようとしている。中国国家図書館はもともと、質的にも量的にも中国国内有数の古典籍所蔵館であった。現在はそれに止まらず、中国全土の古典籍を視野に入れ、大規模古典籍編纂事業でも中心的役割を果たしている。大規模古典籍編纂事業を率いる任館長が館長であったことが、中国国家図書館の役割強化を促した。国家デジタル図書館によって中国の電子図書館事業全体を牽引する中国国家図書館は、古典籍に関する図書館事業においても中国全体を牽引している。両方向への発展、それを可能にする層の厚さが、今日の中国国家図書館に対する評価をより一層高めているのは確かだ。

任館長は大工仕事や自転車修理が趣味だったという¹³。プラスチックケースの廃物利用で名刺入れを手作りしてしまう、創意工夫の人でもあった。私もその洒落た

名刺入れを見せてもらったことがある。最近、教育政策について温家宝首相に進言していた¹⁴。任館長に対しては、温首相も全幅の信頼を寄せていたようである。稀有な知性と独創性を持ち、常に国家百年の大計を考えていた任館長が中国国家図書館に残したものは計り知れない。

¹ 当館と中国国家図書館との業務交流の概要については、当館ホームページ（トップ>国立国会図書館について>国際協力活動>各国図書館との交流）<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/cooperation_operating.html#china>参照。

² 中国国家図書館の沿革は、陳源蒸ほか編『中国图书馆百年紀事（1840-2000）』北京图书馆出版社 2004 p.2、李致忠編『中国国家图书馆』[中国国家图书馆] 1999 pp.6-8、「关于国图 历史沿革」中国国家図書館ホームページ<http://www.nlc.gov.cn/service/gygt_lsyg.htm>の記述による。

³ 歴代館長は、「关于国图 馆领导」中国国家図書館ホームページ<<http://www.nlc.gov.cn/service/gygt.htm>>による。

⁴ 「任继愈先生生平」中国国家図書館ホームページ<<http://www.nlc.gov.cn/rjy/sp.html>>

⁵ 「国家图书馆名誉馆长任继愈先生专访」『国家图书馆学刊』2008(1) p.5.

⁶ 同上

⁷ 同上

⁸ 「国家图书馆举行追思会纪念任继愈先生」中国国家図書館ホームページ<http://www.nlc.gov.cn/syzt/2009/0716/article_313.htm>

⁹ 「为了弘扬中华民族优秀文化的共同目标—温家宝总理与任继愈先生交往纪事[3]」中国国家図書館ホームページ<http://www.nlc.gov.cn/syzt/2009/0716/article_312_3.htm>

¹⁰ 前掲注5参照。

¹¹ 前掲注9参照。

¹² 任继愈「自传」『任继愈学术论著自选集』北京师范学院出版社 1991 pp.549-550.

¹³ 「任继愈 抱憾的“大师”」『南方人物周刊』<<http://www2.nanfangdaily.com.cn/nfrwzk/200907310231.asp>>

¹⁴ 「为了弘扬中华民族优秀文化的共同目标—温家宝总理与任继愈先生交往纪事[4]」中国国家図書館ホームページ<http://www.nlc.gov.cn/syzt/2009/0716/article_312_4.htm>

(URLの最終アクセスはすべて2009.9.9)

(おかむら しがこ)

アラビア文字活字印刷の普及とムハンマド・アリー時代のブーラク印刷所 林瞬介 (国立国会図書館アジア情報課)

1. はじめに

アラビア文字は、アラビア語をはじめイスラム圏の諸言語に用いられる文字である。この文字は筆記体のようにひとつの単語に含まれる文字を続き書きする特徴があり、続き書きを再現した活字による印刷が行われている (図1参照)。

国立国会図書館関西館アジア情報室では、アラビア文字を使用する主要な言語であるアラビア語とペルシア語の資料を合計約 5,500 冊所蔵している。このほか、アラビア文字の使用が廃止された 1928 年以前に出版されたアラビア文字表記のトルコ語 (オスマン・トルコ語) 資料が約 220 冊ある¹⁾。この中には、1720 年代にイスタンブルでイブラヒム・ミュテフェリカが開いた最古のイスラム教徒経営の印刷所で刊行された「ミュテフェリカ版²⁾」をはじめとして、約 200 年間にわたるトルコ語印刷物が含まれ、当室のアラビア文字資料の中でも特に古く貴重な資料が多い。

アラビア文字の印刷物は、19 世紀の中頃まで、トルコ語使用圏 (現在のトルコ共和国周辺) で最大の都市であったイスタンブルが出版の中心であった。中東最大の国家オスマン帝国の首都でもあるイスタンブルでは、トルコ語に限らず、中東の他の主要言語であるアラビア語やペルシア語の印刷物も出版され、当時の世界のアラビア文字出版の中心地のひとつであった。しかし、19 世紀の前半には、トルコ語資料の主要な出版地として、イスタンブルと並んでエジプトのカイロが現れる。当室所蔵のアラビア文字資料のうち、1850 年以前に出版されたことが確認できるものは 27 冊あるが、このうち、エジプトで印刷されたものは 12 冊であり、そのすべてが 1832 年から 1840 年までの 9 年間に出版された。これらは、カイロ郊外のブーラク地区にあった「ブーラク印刷所」で刊行されたトルコ語の資料である。

なぜこの時代、アラビア語圏のエジプトでトルコ語の印刷が盛んに行われたのだろうか。本稿では、アラビア文字による印刷の歴史を 19 世紀前半のブーラク印刷所の創立期を中心として取り上げ、ブーラク印刷所のアラビア語圏にとどまらない、中東・イスラム社会全体におけるその意義を概観するとともに、当館所蔵のブーラク版を紹介したい。

2. ブーラク印刷所前史

(1) アラビア文字活字印刷の始まり

アラビア文字の印刷は、中東・イスラム地域よりもはるかに早く、ヨーロッパにおいて開始された。

通説によれば、最古のアラビア文字印刷物は、グー

テンベルクによって活字印刷技術が確立してから間もない 15 世紀の末から 16 世紀の初め頃に、ヴェネチアのパガニーノ・デ・パガニーニの印刷所で刊行されたコーランであるという³⁾。

16 世紀に入ると、キリスト教の祈祷書など、アラブ人キリスト教徒向けの出版物からアラビア文字の印刷技術は定着し、後には東洋学の発展とともに、地理書、文法書、古典文学など、さまざまな非宗教文献も刊行されるようになった⁴⁾。

(2) 中東地域における印刷

中東地域への印刷技術の伝来自体は非常に早く、15 世紀末にイベリア半島を追放されてオスマン帝国へと亡命してきたユダヤ教徒 (セファルディム) が、1493 年にオスマン政府からヘブライ文字で印刷を行う印刷所の開設を許可されている。その後も、アルメニア正教徒など、非イスラム教徒の間で印刷は次第に広まった。1588 年には、ヨーロッパで印刷された書籍の輸入がアラビア文字のものも含めて許可されたが⁵⁾、イスラム教徒たちは自分たちの手で印刷を行おうとはしなかった。

イスラム教徒が印刷技術の導入に消極的だった原因については様々な理由が挙げられている。例えば、イスラム教徒の伝統的な学問では、知識は師弟相伝の記憶によって伝えられることが重視されていたことが指摘される⁶⁾。

文字の美観の問題も見逃すことはできない。19 世紀頃までヨーロッパで使用されていた活字はのっぺりとして不格好であり、美しい筆跡の写本を愛好するイスラム教徒の審美眼に適うものではなかった⁷⁾。

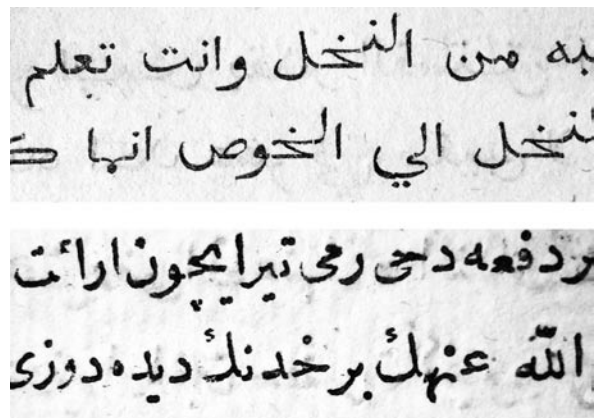


図1 上・ヨーロッパの活字 (ドイツ、1789 年)
下・中東の活字 (エジプト、1832 年)⁸⁾

(3) イスラム教徒が経営する印刷所の創設

中東地域において、イスラム教徒が経営する最初の印刷所は、上述したイブラヒム・ミュテフェッリカがイスタンブルに開設した「ミュテフェッリカ印刷所」である。ミュテフェッリカは、トランシルヴァニア（現ルーマニア）のハンガリー人家庭に生まれ、後にイスラム教に改宗してオスマン政府の官人となった経歴を有する人物である。彼は、フランスへの使節団に随行した経験のある官僚サーイト・エフェンディと共同で、1726年に印刷所の効用を説いた意見書を提出し、アラビア文字文献の印刷を認める勅許（ハットウ・ヒュマーユーン）とイスラム法学者の意見書（フェトヴァー）を得て印刷所を開いた⁹。この印刷所で刊行された出版物が「ミュテフェッリカ版」であり、コーランとその他の宗教書の印刷は禁止されていたものの、1742年に一旦閉鎖されるまでに辞書や歴史書など17点の出版物が刊行された。

しかし、ミュテフェッリカの印刷所創設後も、これに続く印刷所はすぐには現れなかった。第二の印刷所は50年後の1776年、イスタンブルに設立された海軍工学校の校内に開かれた¹⁰。18世紀に顕著となったオスマン帝国のヨーロッパ諸国に対する軍事的な弱体化を背景に、ヨーロッパ式の軍事改革と科学技術の導入が不可避となった結果として、オスマン帝国でも、印刷によって書物を大量生産し、知識を普及する必要性がようやく認識されたことになる。

イスタンブルを離れてアラビア語圏についてみると、18世紀にはアラブ地域の中でもアラブ人キリスト教徒の多いレバノンやシリアでアラビア文字の印刷が始まっていた。しかし、アラブ人イスラム教徒による印刷所は19世紀まで現れなかった。

3. ブーラーク印刷所の歴史

16世紀以来、オスマン帝国の属州であったエジプトに最初に印刷技術を持ち込んだのは、1798年に侵攻してきたナポレオン率いるフランス軍であった。フランス軍はイタリア遠征時にローマで接収したアラビア文字の活字をエジプトに持ち込み、エジプト人向けにアラビア語印刷物を出版したが¹¹、1801年のフランス軍撤退とともに印刷事業は中絶した。

フランス軍の撤退後、混乱の中でエジプトの実権を掌握したのがブーラーク印刷所の創設者となるムハンマド・アリーである。1805年にエジプト総督の座に就いたムハンマド・アリーは、西洋の科学技術や制度を取り入れた大胆な改革を断行し、富国強兵を目指した。

ムハンマド・アリーは改革の基礎として西洋の知識を積極的に取得することを望み、ヨーロッパに留学生を派遣するとともに、彼らに科学技術や軍事に関する大量の書物を購入させ、書物の翻訳を行わせた。国内

でも、ヨーロッパから導入された学問を教育し人材を育成するために、軍事学校をはじめとする西洋式の近代的な学校が創設された。

アラビア語圏で初めての官立印刷所は、西洋化改革の一環として、学問・知識を人々に普及するために設立が求められた。ムハンマド・アリーは、印刷所設立の準備のため、1815年にシリア系アラブ人キリスト教徒のニコラ・マサーブキーをはじめとする留学生をミラノへ派遣し、印刷技術を学ばせた¹²。

印刷所が発足した年ははっきり確定できないが¹³、1821年頃にアラビア語圏において最初のイスラム教徒経営の印刷所として活動を開始したことは確かであり、最初の出版物は1822年に印刷されたアラビア語—イタリア語辞書『Dizionario Italiano e Arabo』とされている。

印刷所で使用する印刷機はミラノとパリから、インクや紙などの印刷資材は、リヴォルノとトリエステから輸入したものを使用した。活字も創立当初はイタリアとフランスから輸入した¹⁴。

印刷所の職員には、イタリア人の植字工を雇い入れたが¹⁵、外国人にすべてを頼ることなく、マサーブキーをはじめとするエジプト人職員に印刷技術を学ばせた。

次章で詳しく見るように、ブーラーク印刷所では、創立当初から中東地域においてアラビア文字を使用する三大言語であるアラビア語、ペルシア語、トルコ語のすべての言語で書かれた出版物を刊行し、出版のジャンルはヨーロッパ由来の学問と、詩などの伝統的な文学・学問のすべてにわたっていた。このほか、1828年には、中東地域で初めての新聞である *وقائع المصرية*（『エジプトの出来事』）を創刊している¹⁶。

1841年、ムハンマド・アリーはヨーロッパ列強の圧力に屈し、エジプト総督職の世襲を認められる代償に、通商の不平等関係を認めるロンドン協定を受け入れた。以後、軍隊は縮小され、西洋式学校も一部が閉鎖されて生徒数が減少したため、ブーラーク印刷所の西洋式学校向けの出版事業も低調となった¹⁷。

ムハンマド・アリーの死後、ブーラーク印刷所は存続の危機を迎え¹⁸、ムハンマド・アリーの孫イスマーイール（在位 1863–1879）の時代には民間に払い下げられた¹⁹。

その後政府によって買い戻された印刷所は、1956年にナセル大統領によってエジプト政府印刷公社に改組され、現在もエジプトの国立印刷所として存続している。

4. 初期のブーラーク印刷所の出版事業

上述のように、19世紀においてブーラーク印刷所が最も盛んに活動していたのは、1820年代の創立から1840年代までのおよそ20年間であった。この時

期に、ブーラーク印刷所で刊行された出版物（いわゆる「ブーラーク版」）は、中東・イスラム地域の近代教育史、文化史、印刷史の上で意義が高く、すでに多くの研究がなされている²⁰。

以下では、主に諸研究に基づいて、初期のブーラーク印刷所の出版事業の傾向と特色を紹介する。

(1) 出版物の傾向

初期のブーラーク印刷所の出版内訳は、1842 年にパリのアジア協会が出版する雑誌 Journal Asiatique に掲載された、1822 年から 1842 年までの 20 年間の出版目録により知ることができる²¹。

これによると、この時期のブーラーク版のジャンルと使用言語は表 1 のとおりである。

ジャンル	使用言語			計
	トルコ	アラビア	ペルシア	
行政学		2		2
軍事	39	9		48
産業		3		3
教育		1		1
欧州史	8	3		11
イスラム史	5			5
地理		3		3
哲学		2		2
道徳	1			1
宗教	6	6		12
神秘主義	4			4
儀式	2			2
預言者伝	6			6
宗教法	1	1		2
辞書	9	1		10
文法書		21		21
詩	24	5	2	31
散文文学	4	2	4	10
修辞学		1		1
数学	10	6		16
自然史		1		1
地学		1		1
工学		7		7
園芸学		1		1
獣医学	1	11		12
農業	1	2		3
医学	1	14		15
百科事典		4		4
その他	3	5		8
合計	125	112	6	243

表 1 1842 年までのブーラーク版の内訳²²

表 1 からうかがえるように、ブーラーク版の出版ジャンルは幅広く、使用される言語はアラビア語よりもむしろトルコ語のほうが多い。

ブーラーク印刷所を設立した主要な目的である近代的な軍事教育に必要な軍事と数学に関する出版物はトルコ語が大半を占める。当時、軍事の近代化に関してはエジプトよりもイスタンブルのオスマン帝国中央政府が先駆者であり、これらの分野の翻訳はイスタンブルでトルコ語により行われていた²³。加えて、エジプトはアラビア語圏ではあるが、ムハンマド・アリー自身をはじめとしてエジプト軍の上層部にはトルコ人、アルバニア人、チェルケス人などの非アラブ系の出自を持つ者が多かった²⁴。彼らが日常会話に用いる共通語はトルコ語であり、軍事学校の教育もトルコ語が用いられた。

一方、同じくヨーロッパから導入された知識分野であっても産業、工学、自然科学、医学、獣医学などの科学技術に関するものは大半がアラビア語である。軍医学校、軍獣医学校などの軍事関係の学校で学ばれるものを含め、こうした学問はイスタンブルでは受容が遅れていたため、ムハンマド・アリーが開いた西洋式の近代学校で科学技術を学ぶエジプト人は、トルコ語を介さずアラビア語によって直接知識を受け入れた²⁵。

イスラム社会の伝統的な学問分野では、100 年前のミュテフェッリカの時代には印刷が禁止されていた宗教関係が出版の対象に含まれることが目を引く。これらの言語をみると、文法学がすべてアラビア語であるものの、他の学問はトルコ語が多い。また詩集などの文学作品もトルコ語が大半を占めた。

トルコ語出版の多さは、前述のようにエジプトの支配層にとってはトルコ語がアラビア語よりも身近であったこともあるが、後述するようにブーラーク版がイスタンブルなどのオスマン帝国中央への輸出にあてられていたことが大きな理由として考えられる。

(2) 印刷技術の特徴

上述したように、ブーラーク印刷所では当初、印刷に必要な機材をすべてヨーロッパから輸入した。しかし、活字だけは、当時ヨーロッパで用いられていたものは、美観においてイスラム教徒の読書に耐え得るものではなかった。このため、書道家サングラーフ・エフエンディ・ファーリスィーが書体作成を命じられ、活字の改良が行われた²⁶。

サングラーフは、イスタンブルでミュテフェッリカ版以来使われてきたナスフ体の活字に加えて、流麗なナスターリーク書体を再現した活字を独自に開発し、この書体はブーラーク版の大きな特徴となっている。ナスターリーク体は見出しなどの飾り文字のほか、詩集の印刷に用いられ、版面の美しいブーラーク版は出版市場で大いにもてはやされた。

図2 ナスターリーク体活字で版面が組まれた詩集²⁷

(3) 出版の仕組み

設立当初のブーラク印刷所における出版事業の仕組みについては、カイロの医学校で校長を務めた「お雇い外国人」のペロンが *Journal Asiatique* 誌に寄せた書簡で述べている²⁸。

これによると、ブーラク印刷所を利用した出版事業は、印刷費用を負担することができれば、政府だけでなく、誰でも行うことができた。出版事業者は、公教育省に出版計画を申請し、許可を得る必要がある。許可が下りると、1ページの行数、紙質、総ページ数を事前に取り決めた。数ヵ月後、印刷が終わると、公教育省は、印刷期間中に印刷所の責任者（監督官）をはじめ、校正者、校閲者、職工長、植字工などの、その本の印刷にかかわった印刷所職員の給料相当額と、印刷に用いた紙、インクなどの資材費として政府が支出した金額を算定し、これに50%を政府の純利益として上乗せした額を出版事業者から徴収した。

出版事業者は、印刷を依頼するにあたり、事前に概算見積額の半額を前払いする必要がある、また印刷遅延が生じた場合のコスト増加分も負担しなければならなかった。高い出版コストをまかなうため、主にイスタンブールやイズミル（現トルコ）など、エジプト国外の出版市場への輸出を前提とした投資目的の出版事業

がもたら盛んになり、政府が自ら行う印刷のほうがまれなほどであった。

1840年代にはイスタンブールに印刷所が増え、ブーラクよりも安価で出版できるようになったので、ブーラク印刷所では、輸出向けの古典の出版が落ち込んだとペロンは指摘しており²⁹、高コストが出版事業停滞の一因となったようである。

5. アジア情報室所蔵の初期ブーラク版

アジア情報室では、初期のブーラク印刷所で印刷されたブーラク版を7タイトル12冊所蔵している。国立国会図書館のアジア言語資料は、国の中央図書館として所蔵すべき基本的なものを中心として収集したものであり、アジア情報室所蔵のブーラク版は、すべて評価の定まった古典作品で、軍事や科学技術に関する同時代の著作物は含まれない。

(1) *Ravzat ü-l-ebrar* (『篤信者の天国』)

ヒジュラ暦1248年ムハッラム月（1832年6月）刊。革装。高さ28cm、幅18cm。本文637ページ。目次あり。トルコ語。販価35ピアストル³⁰。

カラチェレビザーデ・アブデュルアズィズ・エフェンディ（1591-1658）が執筆し、メフメト4世（在位1648-1688）に献呈した人類史で、天地創造から17世紀中頃までの歴史を扱う³¹。

請求記号 Y782-A41。

(2) *Zeyl-i Nâbî* (『ナービーの預言者伝増補』)

ヒジュラ暦1248年ジュマダー・アーヒラ月（1832年11月）刊。半革装。高さ27cm、幅17.5cm。本文268ページ。目次あり。トルコ語。別タイトル *Zeyl-i siyer-i nebevî*。

ヴェイスイー（1561-1628）が執筆した最古のトルコ語による預言者ムハンマド伝 *Dürret üt-tac* (『王冠の真珠』) を、有名な宮廷詩人ナービー（1642-1712）が増補したもの。『王冠の真珠』は、著者ヴェイスイーの死去によりヒジュラ暦2年（624年）のメディナにおけるイスラム教徒とユダヤ教徒の対立までで断絶しているため、本書はこれに続く部分を扱っている³²。

なお、『王冠の真珠』も1829年にブーラク印刷所によって刊行されているが、当館では所蔵していない。

請求記号 Y782-Y12。

(3) *Ahlâk-i alâî* (『崇高な道徳』)

ヒジュラ暦1248年シャウワール月（1833年3月）刊。革装。高さ27.5cm、幅17.5cm。全3巻を1冊に製本。第1巻236ページ、第2巻127ページ、第3巻52ページ。トルコ語。販価24ピアストル。

クナルザーデ・アリ・エフェンディ (1510-1572) が 1564 年に執筆した道德書。全 3 部構成で、それぞれ道德論、家庭の道德、政治の道德を扱う³³。

請求記号 Y782-A58。

(4) **Marifetname** (『知識の書』)

ヒジュラ暦 1251 年 (1835/36 年) 刊。革装。高さ 32.5cm、幅 22.5cm。本文 563 ページ。目次あり。トルコ語。販価 76 ピアストル。

エルズルム出身のイブラヒム・ハック (1703-1780) の著作で、イスラム神秘主義の思想や神学、道德論、数学、地理学、天文学、生理学、心理学などの学問分野にまたがる諸知識を集成した百科全書的な作品。ベストセラーであったようで、ブーラク版はヒジュラ暦 1255 年 (1839/40 年) に再版され、1914 年までにカイロ、イスタンブル、カザン (現ロシア) で 9 版が出版された³⁴。

請求記号 Y782-I14。

(5) **Mesnevî** (『マスナヴィー』)

ヒジュラ暦 1251 年 (1835/36 年) 刊。ビニル革装。高さ 31.5cm、幅 21.5cm。全 6 巻。第 1 巻 341 ページ、第 2 巻 296 ページ、第 3 巻 416 ページ、第 4 巻 459 ページ、第 5 巻 458 ページ、第 6 巻 554 ページ。ペルシア語およびトルコ語。販価 300 ピアストル。別タイトル **Mesnevî şerhi**。

マスナヴィーは、イランで発達した叙事詩の形式で、13 世紀にアナトリア中央部のコンヤ (現トルコ) で活動したイスラム神秘主義者でメヴレヴィー教団開祖のルーミー (1207-1273) が、自身の思想を詩の形式で著した神秘主義詩集が有名である。本書は、ペルシア語で書かれたルーミーのマスナヴィーの章句ひとつひとつを、メヴレヴィー教団員イスマイル・アンカラヴィー (?-1631) がトルコ語によって注釈したもの³⁵。

請求記号 Y771-J1。

(6) **Divan-i Vehbî** (『ヴェフビー詩集』)

ヒジュラ暦 1253 年ラマダーン月 (1837 年 12 月) 刊。ボード装に再製本、化粧断ち済み。高さ 25cm、幅 16cm。本文は 20、17、43、131、16、97、61 ページの 7 部分からなる。トルコ語。販価 37 ピアストル。

「詩人の王」と称せられた 18 世紀後半の宮廷詩人スュンビュルザーデ・ヴェフビー (1719-1809)³⁶ の詩集。全編が流麗なナスターリーク体の活字で印刷されている (前ページ、図 2 参照)。

請求記号 Y782-V6。

(7) **Divan-i Nedim Efendi** (『ネディーム詩集』)

コロフォン (奥付) を欠くため、出版年は不明だが、ヒジュラ暦 1255 年 (1839/40 年) 刊と推定される³⁷。



図 3 『知識の書』。小口にカバーがついた中東特有の装丁。

ボード装に再製本、化粧断ち済み。高さ 24.5cm、幅 16cm。本文は 107 ページと 59 ページのふたつの部分からなる。トルコ語。販価 20 ピアストル。

17 世紀前半の「チューリップ時代」に活躍した宮廷詩人ネディーム (1681-1730)³⁸ の詩集。発行年や発行者に関する情報を欠くが、『ヴェフビー詩集』と同じナスターリーク体の活字が使用され、同等の体裁で組版されていることからブーラク版であると判断できる。

請求記号 Y782-N12。

6. おわりに

ブーラク版の意義として第一に挙げられるのは、その設立目的であったヨーロッパの学問・知識の近代的な学校教育を通じた普及である。また、出版によってヨーロッパの学問が翻訳され、普及したことで、トルコ語・アラビア語にヨーロッパで生まれた近代的な学術用語や概念を表現するための新しい言葉が定着した³⁹。

伝統的な文学の分野でもブーラク版の意義は大きい。トルコ語では、16 世紀から 18 世紀にかけてのオスマン帝国の著名な宮廷詩人の詩集が出版され、写本によらず容易に入手できるようになった。アラビア語では、文学作品の出版例は多くないものの、それまで俗書と見られてアラビア文学のジャンルとしては軽視されてきた説話集の『千夜一夜物語』や寓話集の『カリラとディムナ』が印刷され、これらがアラブの伝統文学作品として再評価される端緒となったことは重要である。

ブーラク以後、19 世紀にはイスラム教徒が経営し、アラビア文字で印刷を行う出版事業が中東全域に広がった。印刷メディアの普及は、近代の中東イスラム社会の文学や思想の発展の大きな原動力となるが、そのさきがけとしてエジプトのブーラク印刷所が果たした役割は、決して少なくない。

- ¹ 関西館アジア情報室所蔵のトルコ語資料の所蔵については、「国立国会図書館所蔵トルコ語・オスマン語図書目録(1986年9月以降整理分)」「アジア資料通報」第31巻特集号(1993)、pp. 2-102. をご覧いただきたい。なお、現在当室ではトルコ語資料の書誌データの遡及入力を進めており、平成21年度中にアジア言語OPAC(<http://asiaopac.ndl.go.jp/>)で検索が可能となる予定である。
- ² ミュテフェッリカ版については、白岩一彦「イブラーヒム・ミュテフェッリカの人と業績 オスマン・トルコ語による金属活字印刷事業を中心に」『参考書誌研究』63号(2005)、pp. 24-58. を参照。なお、同論文では、国立国会図書館の所蔵するミュテフェッリカ版として、Tarih-i Raşid Efendi (『ラーシト史』)を挙げているが、これは東京本館における所蔵であり、当館は関西館アジア情報室で同書のほかに数点のミュテフェッリカ版を所蔵している。アジア情報室所蔵のミュテフェッリカ版については、稿を改めて紹介したい。
- ³ このコーランは現存しておらず、焚書により失われたと言われる。
- ⁴ Yasin H. Safedi, "Arabic printing and book production", *Arab-Islamic bibliography*, Harvester Press (1977), pp. 222-224., G. Oman, "Maṭba'a", *Encyclopaedia of Islam*, New ed., VI, Brill (1991), pp. 795-796.
- ⁵ 鈴木董「西アジア世界では」『印刷博物誌』凸版印刷(2001), pp. 434-437.
- ⁶ 新井政美『トルコ近現代史』みすず書房(2001), p. 18.
- ⁷ 19世紀当時、イスラム教徒たちは、ヨーロッパのアラビア文字活字は「あまりにもしまりがなく、東洋的なプロポーションの良さがまったくない」「不愉快で優美さのかけらもない」と感じていた。Perron, "Lettre sur les Ecoles et l'imprimerie du Pacha d'Egypte", *Journal Asiatique*, série 4, vol. II (1843), p. 19.
- ⁸ *Abdallatiphi : compendium memorabilium Aegypti*, Apud Johann. Georg. Cotta. (1789)., *Zeyl-i Nâbi, Maṭba'at Bülâq* (1832).
- ⁹ 白岩前掲論文, pp. 27-33. ミュテフェッリカの印刷所の最初の印刷物である *Lugat-i Vankulu* (『ヴァンクルの辞書』)は、1729年に刊行された。
- ¹⁰ 新井前掲書, p. 21.
- ¹¹ J. Heyworth-Dunne, "Printing and translation under Muhammad Ali of Egypt", *Journal of Royal Asiatic Society* (1940), pp. 326-327.
- ¹² Turgut Kut, "Bulak Matbaası", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 6, Türkiye Diyanet Vakfı (1992), p. 388.
- ¹³ 管見の限り1819年、1820年、1821年、1822年の各説がある。
- ¹⁴ Heyworth-Dunne, op. cit., pp. 329-330.
- ¹⁵ Oman, op. cit., p. 797.
- ¹⁶ J.T. Reinaud, "De la gazette arabe, turque imprimée en Egypte", *Journal Asiatique*, série 2, vol. VIII (1831), pp. 238-249. 『エジプトの出来事』紙はその後、欧文誌名を *Journal officiel du Gouvernement égyptien* (『エジプト政府公報』)と称するエジプト政府の官報となり、今日まで刊行が続いている。
- ¹⁷ Perron, op. cit., p. 18., Heyworth-Dunne, op. cit., p. 333.
- ¹⁸ Michael W. Albin, "The survival of the Bulaq Press under Abbas and Said (1848-63)", *International Association of Orientalist Librarian Bulletin* (1987), pp. 11-17.
- ¹⁹ Kut, op. cit., p. 389.
- ²⁰ Abū al-Futūḥ Raḍwān, *Tārīkh Maṭba'at Bülâq, Maṭba'at al-Amīrah* (1953). Heyworth-Dunne, op. cit., pp. 324-349., N. Verdery, "The publications of Bülâq Press under Muhammad 'Alī of Egypt", *Journal of American Oriental Society*, XCI (1971), pp. 129-132. など。
- ²¹ T.X. Bianchi, "Catalogue général des livres arabes, persans et turcs imprimés à Boulac, en Egypte, depuis l'introduction de l'imprimerie dans ce pays", *Journal Asiatique*, série 4, vol. II (1843), pp. 24-61. なお、この目録には小冊子類に若干の収録漏れがあり、Raḍwān, op. cit., pp. 446-479. がより完全である。N. Verdery, op. cit., p. 130.
- ²² Bianchi, op. cit. および Heyworth-Dunne, op. cit., p. 334.をもとに作成。
- ²³ Heyworth-Dunne, op. cit., pp. 336-337.
- ²⁴ N. Verdery, op. cit., p. 131-132., 山口直彦『エジプト近現代史』明石書店(2006), p. 39. ムハンマド・アリーはアルバニア系とされ、日常的にはトルコ語を話した(同書, p. 53.)。
- ²⁵ Heyworth-Dunne, op. cit., p. 335.
- ²⁶ Ibid., p. 330.
- ²⁷ *Divan-i Vehbî, Maṭba'at Bülâq* (1837).
- ²⁸ Perron, op. cit., pp. 16-18.
- ²⁹ Ibid., p. 22.
- ³⁰ オスマン帝国で流通した銀貨の貨幣単位。
- ³¹ 濱田正美「トルコ」『アジア歴史研究入門4. 内陸アジア・西アジア』同朋舎, (1984), p. 688., Nevzat Kaya, "Karaçelebizâde Abdülazûz Efendi", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 24, Türkiye Diyanet Vakfı (2001), pp. 387-389.
- ³² Mustafa Erkan, "Düretü't-Tâc", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 10, Türkiye Diyanet Vakfı (1994), pp. 33-34., Abdülkadir Karahan, "Nâbî", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 32, Türkiye Diyanet Vakfı (2006), pp. 258-260.
- ³³ Ahmet Kahraman, "Ahlâk-i Alâî", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 2, Türkiye Diyanet Vakfı (1989), pp. 15-16., Hasan Aksoy, "Kınalızâde Ali Efendi", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 25, Türkiye Diyanet Vakfı (2002), pp. 416-417.
- ³⁴ Mustafa Çağrı, "İbrâhim Hakkı Erzurûmî", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 22, Türkiye Diyanet Vakfı (2000), pp. 305-310., Bekir Topaloğlu, "Mârifetnâme", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 28, Türkiye Diyanet Vakfı (2003), pp. 57-59., M. Seyfettin Özege, *Eski Harflerle Basılmış Türkçe Eserler Kataloğu*, Fatih Yayınevi (1971), p. 1025.
- ³⁵ Erhan Yetik, "Ankaravî, İsmâil Rusûhî", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 3, Türkiye Diyanet Vakfı (1991), pp. 211-213.
- ³⁶ W. Björkman, "Sünbül-zâde Wehbî", *Encyclopaedia of Islam*, New ed., IX, Brill (1997), pp. 876-877.
- ³⁷ Bianchi, op. cit., p. 53.
- ³⁸ Muhsin Macit, "Nedîm", *Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi*, 32, Türkiye Diyanet Vakfı (2006), pp. 510-513., F. Babinger, "Nedîm", *Encyclopaedia of Islam*, New ed., VIII, Brill (1995), p. 1.
- ³⁹ Heyworth-Dunne, op. cit., pp. 336-337.

(はやし しゅんすけ)

新着参考図書目録 (2009.4~2009.6)

2009年4月から2009年6月までの間に、アジア情報室に新しく開架した参考図書の目録である。言語ごとに『国立国会図書館分類表』の概要によって分類し、各主題の中は請求記号順に排列した。なお、中国、コリア以外の諸地域については、地域・国（各地域内の国は五十音順）ごとに排列し、その中を言語別（諸言語→日本語→欧米言語）、請求記号順の排列とした。

記入は書名、著者名、出版事項、形態、請求記号（（ ）内は関西館請求記号）の順に記載し、必要と思われる資料には解題を付した。ハングルのみのタイトルの資料には邦訳を補記した。

中国

中国語の部

<政治・法律・行政>

中国共产党新时期历史大事记：1978.12-2008.3 / 中共中央党史研究室作. — 增订本. — 北京：中共党史出版社，2009.1. — 3, 7, 623p；24cm
ISBN: 9787509801239 **A56-C9-C147**

<経済・産業>

香港金融市场投资指引 = Guide to investing in Hong Kong financial markets / 人本投资集团香港投资团队编著. — 北京：中国经济出版社，2007.2. — X, 546p；23cm
ISBN: 9787501722037 **DF137-C58**

食品市场分析 = Food market analysis / 孟菲，段玉峰编著. — 北京：化学工业出版社，2008.8. — 222p；26cm. — (食品贸易与管理丛书)
ISBN: 9787122031822 **DL681-C3**

<社会・労働>

2008IMI 城市居民消费行为与广告接触研究报告 / 黄升民，丁俊杰，黄京华主编. — 北京：中国广播电视出版社，2008.3. — 10, 380p；29cm. — (《IMI 消费行为与生活形态年鉴》系列)
ISBN: 9787504355645 **EF15-C5**

中国奥林匹克运动通史 = A General history of the Olympic movement in China / 崔乐泉著. — 青岛：青岛出版社，2008.4. — 8, 611p；29cm
ISBN: 9787543647060 **FS27-C5**

<歴史・地理>

重庆地方文献目录提要 / 邵康庆主编. — 北京：国家图书馆出版社，2008.8. — 2, 3, 439p；27cm
ISBN: 9787501336173 **GE2-C235**

重慶図書館が所蔵する重慶地方に関する文献 2,184件について、書誌事項と内容要約を収録。整理時に採用した分類法に応じて、「提要《中国图书馆图书分类法》第3版部分」「提要《中小型图书馆图书分类表草案》部分」「提要《中国图书分类法》(刘国钧编)部分」「提要线装书部分」の4部に大別。排列はそれぞれの分類順。巻末に拼音順の書名索引、著者名索引を付す。

大陆地区台湾研究论著目录 / 潘晋明主编. — 北京：九州出版社，2008.10. — 4, 3, 464p；27cm
ISBN: 9787801958341 **GE2-C236**

1980年から2006年の間に中国、香港、マカオで発表された台湾に関する人文社会科学関係の学術論文約

13,000件、専門書約2,000件を収録。「論文部分」「著作部分」の2に大別し、その中を「台湾政治」「台湾历史」など8に分類して排列。

明代人物別名索引 / 杨昶编著. — 武汉：崇文书局，2008.8. — 2, 16, 296p；27cm

ISBN: 9787540313623 **GE12-C123**

明代の人物約40,000名について、字号・別名と姓名を対照。排列は字号・別名の筆画順。

<哲学・宗教>

唐宋類書徵引《孔子家語》資料彙編；唐宋類書徵引《韓詩外傳》資料彙編 = Citations of the Kongzi jiayu and Hanshi waizhuan found in the leishu compiled in the Tang and Song Dynasties / 何志華，朱國藩編著. — 香港：中文大學出版社，2009. — xii, 259p；27cm. — (漢達古籍研究叢書 = The CHANT series / 何志華，朱國藩主編)
ISBN: 9789629964139 **HB41-C46**

『北堂書鈔』『藝文類聚』など唐宋期の類書類の中から、『孔子家語』『韓詩外傳』を引用している箇所を抜粋して収録。排列はそれぞれの原著の巻順。

<芸術・言語・文学>

上海书画家名典 / 林子序主编；上海水乡书画院编. — 修订版. — 上海：上海人民美术出版社，2008.4. — 8, 772p；22cm
ISBN: 9787532256747 **K9-C29**

1949年以降に上海で活動した書画家766名について、生没年、略歴、代表的な作品の図版などを収録。排列は姓名の筆画順。巻末に拼音索引を付す。

古书虚词通解 / 解惠全，崔永琳，郑天一编著. — 北京：中華書局，2008.5. — 19, 35, 1244p；21cm
ISBN: 9787101047974 **KK12-C329**

『助语辞』『虚字说』など虚詞に関する書籍7種を統合した辞典。古代中国語の虚詞928語を収録。排列は拼音順。巻末に筆画索引を付す。

<科学技術>

化学词典 = Dictionary of chemistry / 常文保主编. — 北京：科学出版社，2008.5. — iv, 1099p；21cm. — (科学版词典系列)
ISBN: 9787030213006 **PA2-C21**

化学の基本用語約8,000語を収録。「无机化学」「分析化学」「有机化学」など10に大別し、その中をさらに細分して排列。巻末に拼音索引、英文索引を付す。

中国农药大辞典 / 石得中主编. — 北京：化学工业出版社，2008.5. — 10, 641p；27cm

ISBN: 9787122008183

RB2-C21

2005年までに商品化された農薬、中国で登録された製剤、および農薬に関する用語や専門家など合わせて約13,000項目を収録。排列は拼音順。巻末に「国外公司名称汉英对照一览表」「中国台湾地区农药名称与大陆农药通用名称对照表」、英文索引、分子式索引を付す。

世界最新英汉医学辞典 = The world contemporary English-Chinese medical dictionary / 白永权主编. — 第2版. — 西安: 世界图书出版西安公司, 2007.8. — 4, 2071p; 20cm

ISBN: 9787506275552

SC2-C49

前版は2000年刊。医学用語約17万語を収録。英語名に中国語名を対照。排列はアルファベット順。巻末に「医疗卫生机构名称」「医院科室名称」「医务人员名称」「摄氏和华氏温度对应表」「公制倍数和约数」の5の付録を付す。

<学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌>

中文圖書分類法: 2007年版 = New classification scheme for Chinese libraries / 《中文圖書分類法》(2007年版)修訂委員會修訂. — 臺北: 國際圖書館, 2007.12. — 2冊; 27cm

ISBN: 9789576784651

UL653-C26

日本語の部

<政治・法律・行政>

中国自動車・部品企業要覧. 2006 / アジアインフォネット企画・データ監修. — 東京: 東西貿易通信社出版事業部, 2006.5. — 605p; 30cm

D4-H648

台湾の経済 data book. 2008. — 東京: 交流協会, 2009.2. — 116p; 30cm

年表あり

DT331-J3

<歴史・地理>

中國石刻關係圖書目録. 1949-2007 / 高橋繼男編. — 東京: 汲古書院, 2009.2. — 284p; 27cm

ISBN: 9784762912191

GE2-J7

宋史食貨志譯註(一)~(六)索引 / 斯波義信編. — 東京: 東洋文庫, 2009.1. — 282p; 22cm

GE281-J5

日本における孫文研究目録: 1895-2006 / 孫文記念館編. — 神戸: 孫中山記念会, 2008.3. — 96p; 30cm

年表あり

GK344-J2

コリア

朝鮮語の部

<政治・法律・行政>

2009 미국을 이끄는 파워 엘리트: Fact book / 국회도서관[編]. — 서울: 국회도서관, 2009.1. —

379p; 23cm. — (한눈에보기시리즈; 2)

索引あり

文献あり

(2009米国を導くパワーエリート)

A2-K17

米国第111代議会の全議員535名および米国政府の主要人物50名について、写真・出身地・学歴・経歴・連絡先・著書などを掲載。巻末に英文表記順の人名索引を付す。

분단의 경계를 허무는 두 자이니치의 방향가: 재일 한인 100년의 사진기록 / 재외동포재단 기획; 김남일[ほか]글. — 서울: 현실문화연구, 2007.2. — 310p; 27cm

その他の著者: 서경식, 양영희, 정호승, 최인석

年表あり

ISBN: 9788992214100

(分断の境界を壊す2在日の望郷歌: 在日韓人100年の写真記録)

A68-Z-K14

법률용어사전 / 편집부 편. — 2009 개정판. — 서울: 현암사, 2009.2. — 56, 1428p; 23cm

索引あり

ISBN: 9788932314716

(法律用語辞典)

A112-K38

法学一般および憲法、行政法、民法などの個別法に使われる法律用語を解説。各用語には漢字表記を併記。巻頭にハングル字母順の索引を、巻末に紛らわしい類似用語の解説を付す。

대한의상징, 태극기 = Symbol of Korea, Taegeukgi / 국립중앙박물관[編]. — 서울: 국립중앙박물관, 2008.9. — 109p; 26cm

会期・会場: 2008年8月14日~11月9日・국립중앙박물관

文献あり

ISBN: 9788995989760

(大韓の象徴, 太極旗)

AK4-211-K22

참여정부의 혁신과 분권: 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [ソウル]: 정부혁신지방분권위원회, 2008.2. — 255p; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서; 01)

(参与政府の革新と分権: 2003~2008)

AK4-311-K73

참여정부의 행정개혁: 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [ソウル]: 정부혁신지방분권위원회, 2008.2. — 367p; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서; 02)

(参与政府の行政改革: 2003~2008)

AK4-311-K74

참여정부의 인사개혁: 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [ソウル]: 정부혁신지방분권위원회, 2008.2. — 423p; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서; 03)

文献あり

(参与政府の人事改革: 2003~2008)

AK4-311-K75

참여정부의 전자정부: 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [ソウル]: 정부혁신지방분권위원회, 2008.2. — 431p; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서; 06)

(参与政府の電子政府: 2003~2008)

AK4-311-K76

참여정부의 기록관리혁신: 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [ソウル]: 정부혁신지방분권위원회, 2008.2. — 227p; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서; 07)

(参与政府の記録管理革新: 2003~2008)

AK4-311-K77

참여정부의 재정세제개혁 : 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [서울] : 정부혁신지방분권위원회, 2008. 2. — 369p ; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서 ; 05)
(参与政府の財政税制改革 : 2003~2008)

AK4-361-K28

참여정부의 지방분권 : 2003~2008 / 정부혁신지방분권위원회[編]. — [서울] : 정부혁신지방분권위원회, 2008. 2. — 423p ; 26cm. — (정부혁신지방분권 종합백서 ; 04)
(参与政府の地方分権 : 2003~2008)

AK4-391-K39

도메인이름분쟁백서. 2007 / 디지털타임즈, 한국인터넷진흥원[編]. — 서울 : 디지털타임즈 : 한국인터넷진흥원, 2007. 5. — 515p ; 27cm
ISBN は外箱より

文献あり

ISBN: 9788995311950

(ドメイン名紛争白書)

AK4-411-K50

정보통신 정책백서 : 2003~2007 / 정보통신부[編]. — 서울 : 정보통신부, 2007. 12. — 306p ; 23cm
(情報通信政策白書)

AK4-471-K5

「世界を先導する情報インフラ」「通信強国の次世代通信・放送サービス」「成長を導く IT 産業高度化」「顧客満足経営優良郵政サービス」「参与政府革新パラダイムの先導者」の5部構成。巻末に用語解説と情報通信部傘下・関連機関の一覧を付す。

정보통신 규제개혁백서 : 2003~2007 / 정보통신부[編]. — 서울 : 정보통신부, 2007. 12. — 128p ; 23cm
(情報通信規制改革白書)

AK4-471-K6

조선민주주의인민공화국 법전 : 대중용 : 2006.1~2007.12. — 증보판. — [平壤] : 법률출판사, 2008. 8. — 633p ; 20cm
(朝鮮民主主義人民共和國法典 : 大衆用 : 2006. 1~2007. 12)

CK3-3-K5

道政白書. — [淸州] : 忠淸北道. — ; 26cm
2006 (2007. 11) ~

Z41-AK602

<經濟・産業>

아시아 문화중심도시 조성 : 종합계획 / 문화관광부
[編]. — 서울 : 문화관광부, 2007. 10. — 113p ; 26cm

(アジア文化中心都市造成 : 総合計画)

DD84-K6

<社会・労働>

일제강점기 사회·사상운동자료 해제 / 국사편찬위원회
[編]. — 과천 : 국사편찬위원회, 2007. 12. — ; 25cm

ISBN: 9788982364044(set) ; 978898236403(1) ; 9788982 364419(2)

(日帝強占期社会・思想運動資料解題)

E1-K6

2006 년 전국 출산력 및 가족보건·복지실태조사 = The survey on the national fertility, family health and welfare in Korea / 김승권 외 저. — 서울 : 한국보건사회연구원, 2006. 12. — 551p ; 24cm. — (研究報告書 ; 2006-24)

その他の著者: 조애지, 김유경, 도세록, 이건우
文献あり

ISBN: 9788981874261

(2006 年全国出産力および家族保健・福祉実態調査)

EC84-K18

標本抽出した既婚世帯・既婚女性に対する調査票と

面談による回答を元に、婚姻、出産等の家族形成ほか、大婦の就業や家族計画、産前産後検診や授乳等の母子保健の実態を調査。

우리 옷 이천 년 / 류희경[ほか][著]. — 개정. — 서울 : 미술문화, 2008. 3. — 192p ; 27cm
文献あり

ISBN: 9788991847569

(私たちの服二千年)

EF25-K5

직업능력개발사업현황 : 2000~2004 / 労働部 雇用政策室 訓練政策課 編輯. — [果川] : 労働部, 2005. 9. — iv, 147p ; 26cm
(職業能力開発事業現況)

EL121-K4

<教育>

한국학생운동관련문헌해제 : 2002 년 연구총서 선행조사

사업 : 민주화운동연구현황 및 과제 조사연구보고서
/ 송병현, 전재호, 엄관용 연구. — 서울 : 민주화운동기

념사업회, 2003. 4. — 286p ; 26cm

文献あり

(韓國學生運動関連文献解題 : 2002 年研究叢書先行調査事業 : 民主化運動研究現況および課題調査研究報告書)

F1-K3

1960 年代から現在まで韓国内で刊行された学生運動に関する主な単行書、論文、雑誌記事の目次および解題を主題別に掲載。内容ごとに分類した参考文献一覧も付す。

대한민국 사립초등 백서 / 이유중, 이효용 글. — 과주

: 김영사, 2007. 3. — 203p ; 22cm. — (교사와 학부모를 위한 함께도서관)

ISBN: 9788934922926

(大韓民國私立初等白書)

FC33-K3

<歴史・地理>

이야기로 엮은 한국사·세계사 비교연표 : 한국사와 세계사를 동시에 본다 : 연표로 보는 쉽고 재미있는 역사 이야기 / 이근호, 신선희 엮음. — 과주 : 청아출판사, 2006. 9. — 275p ; 23cm

(物語で編んだ韓国史・世界史比較年表 : 韓国史と世界史を同時に見る : 年表で見る易しくて面白い歴史物語)

G3-K4

ページの左側に韓国史、右側に世界史の事項を写真とともに記載し、同年代の出来事を一覧できるように構成。巻末に、ページの上下で比較した韓国と世界の文化史年表を付す。

文化遺蹟分布地圖 : 仁川廣域市 桂陽區・富平區・西區・漣津郡 : 1:10,000 / 仁荷大學校博物館 編輯. — [仁川] : 仁川廣域市, 2007. 1. — 376p, 図版 4 枚 : 38cm

文献あり

索引あり

G71-K38

1 万分の 1 の行政地図に遺跡の位置を明示。別表に遺跡名、所在地、時代、種類、概要をまとめ、地図番号と対照させる。巻末に、時代別・種類別・指定文化財の統計、行政区域別・時代別・種類別の遺跡目録を付す。写真も多数あり。

大田의 地圖 : 대전백년사 부록 / 大田廣域市史編纂委員會[編]. — [大田] : 大田廣域市史編纂委員會, 2002. 12. — 134p ; 27cm
折込み地図

(大田の地図 : 大田百年史付録)

G72-K21

World atlas for tourist = 세계관광여행지도 / 편집부
 편. — 서울 : 성지문화사, 2005. 3. — 104p ; 31cm
 索引あり
 ISBN: 8939001486
 (世界観光旅行地図)

G72-K22

국립중앙도서관 소장 「1945년 이전 한국관련 자료」 해제집 / 국립중앙도서관 주제정보과 편집.
 — 서울 : 국립중앙도서관, 2007. 12-. — ; 27cm
 標題紙標題: An annotated bibliography of
 「Materials related to Korea before 1945」 in
 the National Library of Korea collections
 索引あり
 ISBN: 9788973832279(set) ; 9788973832286(1: 철학·종교·교육·사회) ; 9788973833061(2: 법률·정치·행정·외교)
 (国立中央図書館所蔵「1945 年以前韓国関連資料」解題集)

GE3-K50

서양인이 쓴 민속문화 해제 : 민속문화자료 기초조사
 / 명지대학교 국제한국학연구소 조사·편집. — 대전 : 국립문화재연구소, 2007. 10. — 449p ; 26cm
 文献あり
 索引あり
 ISBN: 9788981247690
 (西洋人が書いた民俗文献解題 : 民俗文献資料基礎調査)

GE3-K51

중국·대만소재 한국사자료 조사보고 / 국사편찬위원회 [編]. — 과천 : 국사편찬위원회, 2007. 12. — ix, 600p ; 27cm. — (해외사료총서 ; 14)
 ISBN: 9788982361678(set) ; 9788982363887(2)
 (中国台湾所在韓国史資料調査報告)

GE5-K10

제주 항일인사 실기 / 김찬흡 편저. — [北濟州] : 북제주군 : 북제주문화원, 2005. 8. — 538p ; 26cm
 文献あり
 (濟州抗日人士実記)

GE129-K165

한국지리지 / 국토지리정보원 [編]. — 수원 : 국토지리정보원, 2003. 12-2008. 10. — 6冊 ; 27cm
 付属資料: CD-ROM6 枚
 文献あり
 索引あり
 ISBN: 8995602724(전라·제주편) ; 8995602732(경상편) ; 8995602740(강원편) ; 9788995602768(수도권편) ; 9788995602782(충론편) ; (충청편)
 (韓国地理誌)

GE141-K62

<芸術・言語・文学>

조선의 명산 = Celebrated mountains in Korea / 김금성 편집, 글 ; 이성일 [ほか] 사진 ; 김근희, 김은별 번역. — 평양 : 조선화보사, 2007. 12. — 118p ; 18×25cm
 英文併記
 その他の写真撮影者: 김진호, 정의열, 리춘, 리광수, 홍훈, 권용진
 (朝鮮の名山)

KC726-K10

력사에 이름을 남긴 음악인들 / 문성림 집필. — 평양 : 사회과학출판사, 2001. 4-2002. 2. — 2冊 ; 21cm
 (歴史に名前を残した音楽家たち)

KD9-K6

한류 드라마 속의 그 곳 : 대한민국 여기가 어디지?
 / 한국관광공사 전략상품개발팀 [編]. — 서울 : 한국관광공사 전략상품개발팀, 2006. 12. — 245p ; 27cm
 (韓流ドラマの中のその場所 : 大韓民国ここはどこ?)

KD617-K1

韓国放送公社(KBS)・韓国文化放送(MBC)・ソウル放送(SBS)が作成し、海外でも放映された韓国ドラマ 46 作品について、登場人物、あらすじ、主な撮影ロケ地を掲載。

일본문학 번역 60 년 : 현황과 분석 : 1945-2005 / 윤상인 [ほか] 지음. — 서울 : 소명출판, 2008. 7. — 402p ; 24cm
 裏表紙標題: 日本文學翻譯 60 年
 その他の著者: 김근성, 강우원용, 이한정
 ISBN: 9788956263076

(日本文學翻譯 60 年 : 現況と分析)

KG11-K2

1945 年から 2005 年までの 60 年間に、韓国で翻訳された日本文学について分析。「韓国人にとって日本文学とは何か」「何が翻訳されたのか」「どのように読まれたのか」「どのように訳されたのか」の 4 章からなる。巻末に、韓国で翻訳出版された日本文学作品の一覧を付す。

한국어교육을 위한 한국어 언어 사전 = Korean collocation dictionary for learners / 김하수 [ほか] 저. — 서울 : 커뮤니케이션북스, 2007. 9. — 2冊 ; 20cm. — (한국어교육 총서 ; 3)
 その他の著者: 유현경, 김해옥, 정희정, 강현화, 고석주, 한송화, 조민정, 김현강
 감수: 채드 위커
 별책부록の標題: 한국어교육을 위한 한국어 언어북
 目録
 ISBN: 9788984998711([本編]) ; 별책부록
 (韓国語教育のための韓国語連語辞典)

KJ42-K158

새한글사전 = Nouveau dictionnaire Coréen-Français / 한국불어불문학회 편저. — 서울 : 한국외국어대학교 출판부, 2007. 2. — xxviii, 2813p ; 20cm
 ISBN: 9788974644314
 (新韓仏辞典)

KJ42-K166

한국어-이탈리아어사전 = Dizionario Coreano-Italiano / 한국외국어대학교 이탈리아어과 편. — 수정판. — 서울 : 한국외국어대학교 출판부, 2006. 9. — 1222p ; 19cm
 ISBN: 8974644150
 (韓国語-イタリア語辞典)

KJ42-K168

남녘과 북녘의 초·중등 학생들이 함께 보는 보리국어사전 / 토박이 사전 편찬실 편집. — 과주 : 보리, 2008. 5. — VI, 1497p ; 22cm
 감수: 윤구병
 ISBN: 9788984285439
 (南方と北方の小中等学生と一緒に見るボリ国語辞典)

KJ42-K172

알기 쉽게 풀어 쓴 훈민정음 = Written plainly so as to be understood by everyone Hunmin Jeongeum / 국립국어원 편. — [影印]. — 서울 : 생각의 나무, 2008. 8. — 161p ; 29cm
 英文併記
 ISBN: 9788984988767
 (分かりやすく解いて書いた訓民正音)

KJ43-K201

태국어-한국어사전 = พจนานุกรมไทย-เกาหลี / 한국외국어대학교 태국어과 편저. — 개정증보판. — 서울 : 한국외국어대학교 출판부, 2008. 2. — viii, 1795p ; 20cm
 文献あり
 ISBN: 9788974644765
 (タイ語-韓国語辞典)

KL12-K1

한국어-아랍어사전 = قاموس كوري - عربي / 송경숙, 김능우 편저. — 서울 : 한국외국어대학교 출판부, 2005. 2. — ix, 906p ; 20cm
ISBN: 8974643391
(韓国語-アラビア語辞典) **KM22-K1**

<科学技術>

食品公典. 2009 / 韓國食品工業協會[編]. — 서울 : 韓國食品工業協會, 2009. 3. — 1338p ; 26cm

M361-K8

食品衛生法第7条により、食品医薬品安全庁が告示する食品の基準と規格。食品の原料、成分規格、製造、加工、保存、試験方法などを規定する。巻末に「食品等の表示基準」を付す。

속담 속 바다 이야기 / 국립수산과학원[編]. — 부산 : 국립수산과학원, 2007. 10. — 226p ; 21cm
(ことわざの中の海の話) **RA158-K3**

국립공원 양서·파충류 야외 식별 도감 / 국립공원관리공단 국립공원연구원[編]. — 남원 : 국립공원관리공단 국립공원연구원, 2007. 8. — 77p ; 21cm. — (국립공원연구원 연구보고서 ; 2007-03)
奥付標題: A field guide book of amphibian & reptile in the Korea National Park
文献あり

(国立公園両生・爬虫類野外識別図鑑) **RA6-K14**

기상연감. — 서울 : 기상청, — ; 30cm
2006 년도(2007. 7) ~
(気象年鑑) **Z43-AK72**

「総説」「国内外気象技術動向」「わが国の気象技術およびサービス現況」の3部からなり、気象庁の一年間の主要ニュース、気象変化監視現況や計画、気象情報システムの運用など、気象庁の政策を掲載。

<学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌>
북한도서관의 이해 / 송승섭 저. — 서울 : 한국도서관협회, 2008. 1. — 347p ; 22cm
文献あり
索引あり

ISBN: 9788976781116
(北韓図書館の理解) **UL61-K8**

北朝鮮の図書館の歴史的背景、運営体系、サービス等を解説。学術情報の普及の現状や図書館学、図書館法、図書館建築についても章を立てて言及。

2009 년도 시행계획 : 도서관발전종합계획 : 2009~2013 / 대통령 소속 도서관정보정책위원회 [編]. — 서울 : 대통령 소속 도서관정보정책위원회, 2008. 12. — xi, 961p ; 26cm
(2009 年度施行計画 : 図書館発展総合計画 : 2009~2013) **UL61-K9**

국립중앙도서관 2009-2013 / 국립중앙도서관[編]. — 서울 : 국립중앙도서관, 2008. 12. — 53p ; 26cm
(国立中央図書館 2009-2013) **UL215-K14**

한국십진분류법 / 한국도서관협회 분류위원회 편저. — 제5판. — 서울 : 한국도서관협회, 2009. 1. — 2冊 ; 26cm
標題紙標題: Korean decimal classification and relative index edition 5
제1권: 본표
제2권: 상관색인
ISBN: 9788976781208(set)
(韓国十進分類法) **UL653-K2**

日本語の部

<政治・法律・行政>

大韓民国法概説 / 李範燦, 石井文廣編著. — 東京 : 成文堂, 2008. 12. — 242p ; 22cm. — (名古屋経済大学叢書 ; 第3巻)
文献あり
ISBN: 9784792332532 **AK4-121-J2**

韓国家族関係登録法 : 戸籍に代わる身分登録法対応と実務 / 甲榮鎬, 裴薫著. — 東京 : 日本加除出版, 2009. 3. — 418p ; 21cm
ISBN: 9784817838124 **AK4-811-J1**

<経済・産業>

朝鮮社会主義經濟の現在 / 中川雅彦編. — 千葉 : アジア経済研究所, 2009. 3. — 88p ; 21cm. — (情勢分析レポート ; no. 11)
文献あり
ISBN: 9784258300112 **DC148-J2**

<歴史・地理>

対馬宗家文庫史料一紙物目録 1 / 長崎県立対馬歴史民俗資料館編. — [長崎] : 長崎県教育委員会, 2009. 3. — 654p ; 31cm. — (長崎県文化財調査報告書 ; 第200集) **GB5-J39**

対馬宗家文庫史料一紙物目録 2 / 長崎県立対馬歴史民俗資料館編. — [長崎] : 長崎県教育委員会, 2009. 3. — 649p ; 31cm. — (長崎県文化財調査報告書 ; 第200集) **GB5-J40**

対馬宗家文庫史料一紙物目録 3 / 長崎県立対馬歴史民俗資料館編. — [長崎] : 長崎県教育委員会, 2009. 3. — 472p ; 31cm. — (長崎県文化財調査報告書 ; 第200集) **GB5-J41**

これアドレス : 住所コードでさがす韓国地名データブック. 2008 第1巻 / かじりたてのハングル編. — [出版地不明] : [かじりたてのハングル], 2008. 8. — 300p ; 21cm **GE11-J1**

これアドレス : 住所コードでさがす韓国地名データブック. 2008 第2巻 / かじりたてのハングル編. — [出版地不明] : [かじりたてのハングル], 2008. 8. — 278p ; 21cm **GE11-J2**

これアドレス : 住所コードでさがす韓国地名データブック. 2008 第3巻 / かじりたてのハングル編. — [出版地不明] : [かじりたてのハングル], 2008. 8. — 300p ; 21cm **GE11-J3**

これアドレス : 住所コードでさがす韓国地名データブック. 2008 第4巻 / かじりたてのハングル編. — [出版地不明] : [かじりたてのハングル], 2008. 8. — 300p ; 21cm **GE11-J4**

<芸術・言語・文学>

韓国語学習者のためのやさしい韓韓辞典 / 国立国語院(韓国), 韓国語世界化財団編. — 東京 : HANA, 2008. 12. — 855p ; 22cm
ISBN: 9784757414709 **KJ42-J7**

韓国スター名鑑 : 全面改訂〈完全保存版〉. 2009-2010 年最新版. — 東京 : ぴあ, 2009. 1. — 224p ; 29cm. — (ぴあmook)
ISBN: 9784835612355 **Y94-J7123**

<学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌>

朝鮮における日本人経営新聞の歴史：一八八―一九四五 / 李相哲著. -- 東京：角川学芸出版, 2009.2. -- 239p ; 20cm
文献あり
ISBN: 9784046213976 UC129-J2

諸地域

西アジア

<西アジア全般>

Political handbook of the Middle East 2008. -- Washington, D.C. : CQ Press, c2008.. -- x, 595 p. : ill., maps ; 25 cm. -- (Regional political handbooks of the world)
別タイトル: Middle East 2008 / Includes bibliographical references and index.
ISBN: 9780872895744 (A2-P16)

「Ⅰ：導入」「Ⅱ：政府」「Ⅲ：政府間組織」「Ⅳ：付録」の4部からなる。Ⅰでは中東政治について概説、Ⅱでは25カ国の国家機構、政治状況を各国別に解説。Ⅲでは11の政府間組織について、設立時期、場所、目的、組織構成、活動内容などのデータを収録。Ⅳは「付録A：中東における2007年の主要出来事」と「付録B：逐次刊行物リスト」からなる。巻末にアルファベット順の人名索引を付す。

中央アジア

<グルジア>

Historical dictionary of Georgia / Alexander Mikaberidze. -- Lanham, Md. : Scarecrow Press, 2007. -- 1,733 p. : maps ; 23 cm. -- (Historical dictionaries of Europe ; no. 50) Includes bibliographical references (p. 699-732).
ISBN: 9780810855809 GE8-B48

レファレンスツール紹介⑩

中国の映画について調べる

中国で最初の映画『定軍山』が製作されたのは、1905年のことです。それから100周年を迎えた2005年には中国で多くの映画関係の書籍が出版されました。また、最近では中国の映画が国際的な映画賞を受賞することが増え、2008年には『赤壁』（邦題：『レッドクリフ』）が世界的なヒットを記録するなど、中国映画の国際化も進んでいます。今回は、中国語資料を中心に、中国の映画を調べるためのツールをご紹介します。

インターネットサイトの最終接続日は2009年7月29日です。〈 〉内は当館請求記号、〈 () 〉内は関西館請求記号です。特に記述のないものはすべて中国語資料です。

1. 中国映画界の動向・ニュース

新しい情報を探するには、雑誌やインターネットサイトが有用です。

『中国電影年鑑 = China film yearbook』（中国電影出版社 年刊）〈Z42-AC30〉

中国映画界の動向をまとめた年鑑です。その年に公開された中国、香港、台湾の映画の概要や映画評論、国内外の映画賞情報などを収録しています。映画産業の動向も掲載しており、たとえば2007年の中国国内における映画の興行収入が約33億元に上り、402本の映画（テレビ映画やアニメーションを除く）が製作されたことが分かります（2008年版による）。

『大眾電影 = Popular cinema』（中国電影出版社 月2回刊行）〈Z11-AC49〉

一般向けの中国映画雑誌で、話題の映画紹介や映画界のニュースなどを掲載しています。ホームページ「大眾電影」（<http://dzdy.qikan.com/>）では、2001年以降刊行の号に掲載された記事のタイトルと本文の一部が閲覧可能です（全文閲覧には登録が必要）。

『電影藝術』（中国電影出版社 隔月刊）〈Z11-AC44〉

中国映画業界の専門誌で、映画界の動向や人物紹介、映画評論、海外の動向などを掲載しています。

中国電影博物館(<http://www.cnfm.org.cn/index.shtml>)

北京にある映画博物館のホームページです。展示品紹介や新作映画に関するニュースなどを掲載しています。

2. 辞典類

『中国電影大辭典』（上海辭書出版社 1995）〈KD2-C4〉

約8,000項目を収録する辞典です。中国の映画監督、キャスト、スタッフなどの人名、代表的な映画作品のほか、映画制作会社、映画に関する事件、映画祭など、映画に関する項目も収録しています。人物については写真を掲載しています。巻末に拼音順の索引を付しています。

中国語資料としてほかに、『電影藝術詞典』（中国電影出版社 2005）〈KD2-C27〉、『電影電視辭典』（四

川科學技術出版社 1988）〈KD2-C9〉などがあります。

『Encyclopedia of Chinese Film』（Routledge 1998）〈KD1-P7〉

英語資料です。2部構成の辞典です。Part Iでは‘Chinese cinema’ ‘HongKong cinema’などテーマ別で映画の歴史を解説しています。Part IIでは映画界の主要な人名、作品名、映画用語などをアルファベット順に排列し、解説しています。

3. 作品の解説

特定の作品についての情報を探したい場合には以下の資料が有用です。

『百年中國電影精選』（中國社會科學出版社 2005）〈KD671-C39〉 全8巻

2004年までに中国で製作された6,000本以上の映画作品の中から、各年代を代表する映画約800本について紹介しています。キャストやスタッフなどの基本情報、写真やストーリー紹介のほか、映画の背景なども記載しています。

『中國百年藝術影片』（河北人民出版社 2005）〈KD671-C52〉

1905～2004年の100年間に中国で製作された映画6,841作品を収録しています。1905～1949年の作品については制作会社、キャスト、スタッフを収録。1949年以降の作品については、ストーリーも紹介しています。

『電影百年佳片賞析』（中国長安出版社 2005）〈KD671-C55〉 全2巻

中国映画史を代表する120本を収録しています。収録数は少ないですが、1本の映画につき、3～6ページを割いて解説を付しています。

『The Chinese filmography : the 2444 feature films produced by studios in the People's Republic of China from 1949 through 1995』（McFarland & Co. c1997）〈KD1-P3〉

英語資料です。2,444本の映画を収録しています。排列は英語タイトルのアルファベット順です。たとえば、『秋菊打官司』（邦題：『秋菊の物語』）は英語タイトル“The Story of Qiu Ju”で探します。

4. 映画史

『中國映画の100年』（二玄社 2006）〈KD671-H92〉

日本語資料です。上海で最初に映画（フランス製実写フィルム）が上映された1896年から現在までの中国映画の歴史を、代表的な約120本の映画とともに紹介しています。巻末には五十音順の映画人索引を付しています。

『新中国电影史 = A history of Chinese cinema : 1949-2000』(湖南美術出版社 2002.11) <KD671-C36>

中国映画の歴史を概観し、映画の製作時の時代背景や各年代の映画の特徴を解説しており、代表的な映画の写真も多く掲載しています。巻末に映画界の重大な出来事をまとめた年表を付しています。

『中国电影文化史 = History of Chinese film culture : 1905-2004』(北京大学出版社 2005) <KD671-C57>

中国の映画史を文化的側面から解説しており、張芸謀(チャン・イーモウ)や王家衛(ウォン・カーウァイ)など、著名な中国人映画監督についても詳しく論述しています。巻末に人名・映画タイトル索引を付しています。

上海は 1896 年に中国で初めて映画が上映された場所であり、それ以降も中国映画文化の中心地でした。中国映画史を調べる際、上海映画史に関する以下の3点の資料も有用です。

『上海电影百年图志』(文匯出版社 2006) <KD671-C56>

『上海电影 100 年』(上海文化出版社 2007) <KD671-C46>

『上海電影志』(上海社会科学院出版社 1999) <KD671-C47>

中国映画百年(<http://huodong.ndcnc.gov.cn/huodong/film/index.html#>)

中国映画の歴史を紹介しているサイトです。中国の映画史について、年代を追って解説しています。「电影明星」では中国を代表する映画スターの写真やプロフィールを閲覧することができます。そのほか、映画監督や映画音楽についても紹介しています。

上海年華-电影记忆-(<http://memoire.digilib.sh.cn/SHNH/index.htm>)

上海図書館が作成しているサイトです。「中国影星录」では、1949 年以前の映画スターの写真やプロフィールを閲覧できます。「中国电影期刊全目书志」では映画関連の雑誌を検索することができます。

5. 香港映画

香港では、カンフーアクションを始め、中国本土とは異なる映画ジャンルが発展しました。近年では、呉宇森(ジョン・ウー)など国際的に有名な映画監督を輩出しています。香港映画に関する資料には以下のようなものがあります。

『香港电影图志 : 1913-1997 = Records of the Hong Kong cinema』(浙江摄影出版社 1998) <KD671-C54>

『圖說香港電影史 : 1920-1970』(三聯書店 1997) <KD671-C22>

上記2点はいずれも香港映画史の図録で、カラーのポスターやスチール写真を多く収録しています。古い年代

の映画のポスターなどの画像も多く掲載しています。

『香港影片大全 = Hong Kong filmography』(香港電影資料館 1997-) <KD671-C33> 全6巻

香港映画のあらすじ、キャスト、スタッフなどを収録しています。当館では第二～五巻を所蔵しています。

資料としてほかに、『回顧香港電影三十年』(三聯書店 1989) <KD671-C48>などがあります。

6. 台湾映画

台湾映画は 1980 年代以降の台湾ニューウェーブと呼ばれる映画など、独特の作品を生み出してきました。台湾映画に関する資料をご紹介します。

『台灣電影百年史話』(中華影評人協會 2004) <KD671-C53> 全2巻

1900 年から 2000 年までの台湾映画の歴史を解説しています。全21章からなり、第1章は総論、第2～9章では5～15年ごとの年代区分で台湾映画界の動向を解説、第11～21章では「台湾映画教育」などのテーマ別で台湾映画史を解説しています。

『跨世紀台灣電影實錄 = The chronicle of Taiwan cinema : 1898-2000』(行政院文化建設委員會, 國家電影資料館 2005) <KD671-C58> 全3巻

映画の公開や映画賞、映画界における出来事など、台湾映画の歴史を詳細な年表で紹介しています。映画に関するイベントが行われた日付とその内容も詳しく知ることができます。たとえば、下巻 p.1167 をみると、1994 年9月1日に「第39届亞太影展」(第39回アジア映画祭)が開催され、『飲食男女』(邦題:『恋人たちの食卓』)が最優秀作品に選ばれたことなどが分かります。

台灣電影資料庫(<http://cinema.nccu.edu.tw/cinema/V2/>)

台湾の映画、映画関係の書籍、映画に関するニュースなどを検索することができるデータベースです。

7. その他の映画関係資料

今回ご紹介した資料は、当館で所蔵している中国映画関係資料のごく一部です。このほかにも、「武侠映画」や「戦争映画」など、特定ジャンルに限定した資料も多く所蔵しています。日本語および英語の資料は NDL-OPAC (<http://opac.ndl.go.jp/index.html>)で、中国語などアジア言語の資料についてはアジア言語 OPAC (<http://asiaopac.ndl.go.jp/>)で探すことができます。その際、「中国」「映画(アジア言語 OPAC で中国語資料を検索するときは「电影」)」などのキーワードでタイトル検索するほか、アジア諸国の映画を表す分類記号「KD671」で検索すると、効率よく資料を絞り込むことができます。(齊藤まや)

お知らせ

平成 21 年度アジア情報研修「現代インド情報の調べ方」の開催

この研修は、日本国内の各図書館におけるアジア情報にかかるサービスの向上に資することを目的に実施するものです。第8回目の今回はインドの資料・情報に関する科目を中心に行います。ぜひご参加ください。

日時：平成 21 年 11 月 18 日（水）～19 日（木）

会場：国立国会図書館関西館 第1研修室

対象：大学図書館、専門図書館および公共図書館または研究機関の職員で、原則として業務においてアジアに関連する情報を扱う方。

定員：20 名（申込み多数の場合は調整させていただきます）。

内容・講師

11 月 18 日（水）	
13:30～13:40	開会の挨拶
13:40～15:00	インド関連情報の調べ方（講義） 国立国会図書館関西館アジア情報課
15:10～16:30	インド関連情報の調べ方（実習） 国立国会図書館関西館アジア情報課
16:30～17:30	アジア情報室・書庫見学 国立国会図書館関西館アジア情報課
11 月 19 日（木）	
10:00～12:00	インドの法情報とその入手 大阪大谷大学人間社会学部准教授 浅野宜之（あさの のりゆき）氏
13:30～15:30	インド歴史・地域研究とその資料 神戸市外国語大学国際関係学科准教授 大石高志（おおいし たかし）氏
15:40～16:10	意見交換・質疑応答
16:10～16:20	閉会の挨拶

※ 第1日目終了後、18:00 から 19:00 まで、懇親会を予定しています。

申込方法：電子メール（k-azia@ndl.go.jp）または FAX で、次の事項を明記のうえお申込みください。

①氏名、ふりがな ②所属機関、所在地 ③所属部署・職名 ④連絡先電話番号、電子メールアドレス（または FAX 番号） ⑤図書館勤務年数、現在の業務内容、これまで従事したアジア関係業務の内容

申込締切：平成 21 年 10 月 21 日（水）必着

受講の可否については 10 月 23 日（金）までに電子メール（ない場合は FAX）でお知らせします。

問い合わせ先

国立国会図書館関西館 アジア情報課

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3

TEL：0774-98-1371（直通） FAX：0774-94-9115

アジア言語 OPAC へのタイ語図書書誌データの追加

平成 21 年 7 月 1 日（水）、アジア言語 OPAC に、タイ語図書の書誌データを追加しました。公開件数は、請求記号が Y745 で始まる図書 1,494 タイトル、2,101 冊で、原綴り、ローマ字翻字の両方で検索が可能です。

現在、アジア言語 OPAC では、以下の書誌データを検索できます。

- ・1986 年以降に整理した中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、ベトナム語、タイ語、ヒンディー語、サンスクリット語、ペルシア語、アラビア語の図書および非図書資料
- ・中国語、朝鮮語の雑誌、新聞および年鑑類（ただし年鑑類は 1986 年以降整理したもの）

○アジア言語 OPAC (<http://asiaopac.ndl.go.jp/>)

中国学術雑誌全文データベース (CAJ) バックナンバーアーカイブの追加

当館で中国学術雑誌全文データベース (CAJ) のバックナンバーアーカイブが利用できるようになりました。CAJ に収録されている雑誌のうち、約 3,700 種について 1993 年以前のデータを収録しています。

これまで、本文を閲覧できる論文は 1994 年以降のものに限られていましたが、これにより、CAJ で本文が提供されている論文を全て閲覧することができるようになりました。

利用方法の詳細については、「CNKI 中国学術情報データベース (CAJ) の使い方」(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-asia-63.php) をご覧ください。また、郵送複写サービスも行なっています。詳しくは「アジア情報室資料の郵送複写サービス」(<http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/asia-ds.php>) をご覧ください。

アジア情報室通報（季刊）第7巻第3号 2009年9月

編集 国立国会図書館関西館アジア情報課

発行 国立国会図書館

印刷 吉岡印刷株式会社

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3

TEL 0774 (98) 1390 FAX 0774 (94) 9115

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/kansai/asia/>

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

TEL 03 (3581) 2331 (代表)

〒639-2111 奈良県葛城市柿本 129

TEL 0745 (69) 2032 (代表)